

### 子ども食堂運営団体 八戸で初会合

## 活動継続へ連携強化



現状や課題について意見を交わした子ども食堂の関係者ら  
＝2日、八戸市

北奥羽地方で子ども食堂を運営する団体などで構成する、子ども食堂推進プロジェクト(代表・佐藤千恵子八戸学院大准教授)は2日、八戸市内で活動に関する報告会を開いた。北奥羽の関係者が集い、情報や意識を共有する会合の開催は初めて。出席者は現状や課題について意見を交わし、それぞれの活動継続に向け、連携を強化していく方針を確認した。(玉川那津美)

### スタッフ、資金確保課題

子ども食堂は、低価格もしくは無料で地域住民らに食事を提供する場として、全国に展開している。北奥羽では、佐藤准教授が2016年、八戸市内で初めて開設。現在は市内4カ所、洋野町内1カ所で開かれて

この日は佐藤准教授のほか、同市の「そよ風」や「まんなまるカフェ」「あおば食堂」、本年度中の開設を目指す社会福祉法人などから計約10人が出席した。会合では、出席者が、食

堂を始めて良かった点や現在の課題などをそれぞれ発表した。席上、ボランティアスタッフや運営資金の確保が共通の課題として上がったほか、高校生などに協力を呼び掛けたり、地域に広く食材の提供を求めたりしてはどうかとのアイデアが出た。

夏ごろまでの運営開始を

予定している社会福祉法人 授は、北奥羽ではこれまで東奥(同市)の伊藤友子理事長は「食中毒やアレルギー対応が心配だ」と述べ、出席者に意見を求めた。これに対し、佐藤准教授は、北奥羽ではこれまで「調理者の手洗いやうがいなど、基本的な項目を徹底することが重要だ」と語った。